# 明治大学の教育

特別座談会

## わかるようでわからない？ 今こそ伝えたい“大人の学び”の魅力とは

“生涯学習”、“リカレント”、“リスキリング”などの意味や背景、
大人が学ぶことの意義や魅力について、
明治大学リバティアカデミー長である井田正道教授が、
教育学を専門とする齋藤孝教授、労働経済学の研究者である原ひろみ教授と語り合いました。

### 生涯学習で人間性を豊かにすることは、学びの根本

**井田**　人生100年時代、女性活躍推進を受けて、大人の学び直しを積極的に推奨する声が政府からも出てきていますが、その必要性はまだ認識されていないように感じます。そもそも、生涯学習とはどのように展開してきたのでしょうか。

**齋藤**　1980年頃から大人を集めてクリエイティブな学習活動をしようとする運動が、公民館を中心に広まりました。生涯学習は、地方の公共団体が主催するものだけではなく、市民大学や個人がそれぞれに行う学習活動のすべてを含んだ広い概念だと捉えていいでしょう。さらに、同じ頃からカルチャーセンターがブームになり、昼間にも講座が組まれたため、教養を身につけたい主婦層の受講が増えていったという経緯があります。

**井田**　リバティアカデミーでも教養・文化講座とビジネスプログラムがありますが、前者はその流れをくんだものですね。

**原**　教養文化を学ぶ方たちの目的はどこにあるのでしょう。キャリアアップやスキル獲得とはまた違うように思うのですが…。

**齋藤**　市民大学の講師を長く務めていて感じたのは、純粋に学びを喜びとすると いうこと。哲学や文学、歴史などの勉強を、大学に行けなかったけれど学んでみたかったという方や、定年を機に、会社員時代はできなかったことを学びたいと来られるなど、人生の原動力になるようなものとして求められている印象です。

**原**　学ぶこと自体に喜びを感じられると。人としてうらやましいですね。

**齋藤**　福沢諭吉は、目的のない勉強こそが本当の勉強だと言っています。自分がオランダ語を学んだのは、それで生計を立てようとしたわけではなく、ただ難しいものを読みたかったと。学びというのは、何かに役立つ、還元できるというところとは無縁なところに美しさがあるのではないでしょ

うか。そして、「人間性を豊かにすることが、本来の学びの根本である」ということが、もう少し共有されていい。大学が学びたいと思っている人に対し、もっと開かれた空間であればいいなと思います。

**井田**　リバティアカデミーも、純粋に学びたいという多くの方に受講されてきました。本学は、幅広い学部構成のため、多様な興味に応えることができます。さらに、駿河台キャンパスは立地がよくアクセスしやすいのも、多くの人を受け入れるうえで利点なのではないでしょうか。

## リカレント教育や進むリスキリングの流れ

**井田**　ここ十数年でリカレントという言葉がよく使われるようになりました。

**齋藤**　文脈としては、企業に勤めつつ、レベルアップするために大学院に戻るような動きのことが、リカレント教育と呼ばれています。

**井田**　もともとの意味は、仕事をしてから学びの期間をつくり、また仕事を繰り返していくことですが、日本ではなかなか難しいので、働きながら学ぶというのもリカレントとして広く捉えているきらいがありますね。

**原**　ビジネススクールに通うのもリカレントの一種ですよね。

**齋藤**　アメリカではMBA（経営学修士）を取ると年収アップが期待できるので、日本もこれを参考にして専門職大学院で資格を取ることで給与アップが望まれるというモデルを目指したのでしょう。

**原**　日本は他国に比べ、人材育成にかける費用がGDPに対して少ない一方で、日本企業は人材育成に積極的だともいわれています。新卒一括採用で白紙の状態から育て上げていくカルチャーが強いため、あえて外の機関で学ぶ必要性を感じにくかったのかもしれません。

**井田**　育て上げるとなると、長い間その企業にいることがベースにあると思うのですが、今の若い人たちが会社を移ることへの抵抗感は下がっているように見受けられます。

**原**　統計データを見ると、転職率や離職率は必ずしも上がってはいないのですが、働き盛りの男性の平均勤続年数は落ちています。また、現在は長く勤めれば勤めるほど優遇される退職金税制ですが、政府が見直しの検討を発表するなど、労働市場の流動化を促そうとしています。

**井田**　この流れに拍車がかかれば、学び直しの位置づけも変わっていきそうですね。さらにここ数年は、リスキリングという言葉も出てきています。

**原**　デジタル化が進むと仕事が大きく変化して職を失う恐れのある人が出てくるかもしれませんが、組織的にリスキリングに取り組めば多くの人が新しいキャリアに就けるという試算が世界経済フォーラムから出され、その必要性が提唱されたことで注目を集めました。

**齋藤**　リスキリングは、DX化が加速してきたなかで言われるようになったこともあり、プログラミングなどの難しい技術を身につけることを指しがちですが、それだけでなく、もともと持っていない技術を新たに身につけることも含めて、「リ」スキリングと言っている気もします。

**原**　自分が持っていない仕事に必要なスキルを新しく身につけるというのは、昔から当たり前にされてきたことなので、昔からあるものを、表現を変えることで関心を高めるという狙いもあったと感じます。個人的には従来の職業能力開発と大きく変わらないと考えています。

## 「知の殿堂」である大学が教育する意義は深い

**井田**　平均寿命が長くなるなかで、学び直しに関して、どう変わってきたとお感じですか。

**齋藤**　定年後も資格を生かして働きたいという人が女性を中心に増えていると思います。大学院における30代以降の方の割合は諸外国に比べて低かったのですが、近年は公認心理師、社会福祉士などの資

格を取りたい人の率が高まり、オンライン化でさらに加速した感があります。

**井田**　リバティアカデミーでは大学教員が教鞭を執っていますが、彼らから学ぶことのメリットは何でしょうか。

**原**　教育者であり研究者でもある大学教員は、体系だった知識を提供できることが強みです。例えば、経済で今起きている事象や社会的課題を考えるとき、歴史的な視点を持ちつつ、理論に基づいたデータ分析から実証的に示すことができる。かつ、ミクロ的な視点やマクロ的な視点、国際比較や政策との関連など複数の切り口から迫ることができます。講座受講から大学での学びに関心をもってもらえたらと思います。

**井田**　講座と大学の専門教育の溝を埋めるため、今年度からその橋渡しになるような「プレMBAプログラム」という2カ月の簡略化したプログラムを組みました。選択肢が広がることを期待しています。

**齋藤**　大学で学び直すというのは、社会的信用があるという点も大きく、レベルの高さとともに公共性が非常に高いところも大学ならではです。また、ネットには学術情報を発信する良質なYouTubeチャンネル等もありますが、発信者が何かあったときに責任を取るようなポジションにいない場合、情報に嘘があっても仕方がないわけです。でもリバティアカデミーが提供する情報に嘘があるなら問題になりますよね。やはり「知の殿堂」としての大学が行う教育の意義は、とても深いと考えています。

**井田**　おっしゃる通りです。より幅広い学び直しの場としても、研究へのかけ橋としても、生涯教育機関であるリバティアカデミーが役割を果たせればと思います。

**この続きはMeiji.netで掲載中**

3人による別テーマでの座談会「大人をしあわせにする、“学び続ける力”と“学び続けられる社会”」を、Meiji.netで公開しています。ぜひご覧ください。

https://www.meiji.net/feature/202309_01

## PROFILE

**井田 正道** *IDA Masamichi*

明治大学政治経済学部教授、明治大学リバティアカデミー長、社会連携副機構長。専門は、政治学、政治意識論、政治行動論

**齋藤 孝** *SAITO Takashi*

明治大学文学部教授。専門は、教育学、身体論、コミュニケーション論。『身体感覚を取り戻す』(NHK出版)で新潮学芸賞、日本語ブームをつくった『声に出して読みたい日本語』(草思社)で毎日出版文化賞特別賞

**原 ひろみ** *HARA Hiromi*

明治大学政治経済学部教授。専門は、労働経済学、実証ミクロ経済学。労働者の職業能力開発、ジェンダー経済格差や教育の効果など人的資本に関わるテーマを中心に、日本の労働市場や労働政策の効果に関する研究を行う